SD マイクロコンポ

品番 **MCT-L7**

取扱説明書

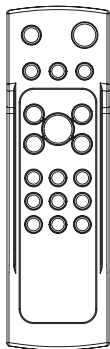
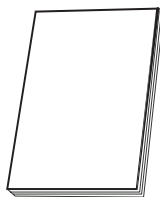
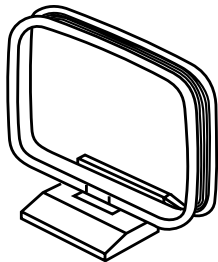
∞ このたびはフェリシス製品をお買い上げいただき、 ありがとうございます。

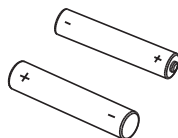
∞ ご使用の前に、 この取扱説明書をよくお読みのうえ、 正しくお使いください。

∞ 保証書は必ず [販売店名・購入日] の記入を確かめ、 販売店からお受け取りください。

もくじ

付属品の確認

本機には下記の付属品が同梱されております。 開封時には必ずこれらの有無をご確認ください。
セット内容の変更に伴い、 付属品の種類は変更になる場合があります。 予めご了承ください。

取扱説明書 (1)

付属の乾電池はリモコンの動作確認用ですので早めの交換をお願いいたします。

リモコン (1)　AM ループアンテナ (1)　リモコン用電池 (2)

ディスクの挿入について (強引で無理な挿入は故障の原因になります！)

本機のディスクシステムは垂直式です。 かつ、 メカニカルなローディング方式です。
決して無理に挿入しないでください。 メカの動きを妨げる挿入を行わないでください。

◎やさしい挿入のしかた

演奏面を内側 (操作ボタン側)、 プリント面を外側に向けて挿入してください。
最初はやさしくゆっくりとディスクの 7 分の 3(半分の手前) 程度を挿入します。
40%程度の挿入を本機が認識し、 自動的にディスクを挿入します。

◎正しい排出のしかた

本体の ［CD 排出 ⏏］ボタンを押すとディスクを半分程度排出します。
排出動作の停止を確認後、 10 秒以内にディスクを抜いてください。

免責事項

お客様または第三者が本製品の誤使用または使用中に生じた故障、 またその他の不具合等を含め、 本製品の使用によって受けられた損害については、 法令上賠償責任が認められる場合を除き、 当社は一切その責任を負いませんので、 あらかじめご了承ください。
本機は一般家庭用機器として製造された商品です。 一般家庭用以外 (飲食店等での長時間再生、 車両や船舶への搭載使用) でご使用し故障が発生した場合は保証期間内でも有償修理を承ります。

安全上のご注意

お使いになる人や他の人への危害、 財産への損害を未然に防止するため、 必ずお守りいただくことを、 次のように説明しています。

■表示内容を無視して、 誤った使い方をしたときに生じる危険や損害の程度、 次の表示で区分して説明しています。

人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

■お守りいただきたい内容の種類を次の絵表示で区分して説明しています。

（ 下記は絵表示の一例です ）

このような絵表示は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。

このような絵表示は、 してはいけない「禁止」内容です。

このような絵表示は、 必ず実行していただく「強制」内容です。

電源コードやプラグを傷つけない

無理な折り曲げ、 ねじり、 加熱、 加工、 重量物の下敷きなどは電源コードの皮膜の破損、 芯線のむき出しの原因となり、 ショートや絶縁不良による火災や感電につながります。

●プラグを抜くときは根本を持ち、 まっすぐ抜いてください。

●修理は販売店にご相談ください。

異常が発生したときは電源を切り、 電源プラグを抜く

そのまま使うと、 ショートや絶縁不良で発熱し、 火災や感電の原因になります。

下記の症状の場合は絶対に正しく処置してください。

○煙が出る　○異常に熱い　○異常なにおいや音がする　○内部に水や異物が混入した。

分解や改造をしない

内部には電圧の高い部分があります。 分解や改造は、 火災・感電・故障の原因になります。

●修理・調整は販売店にご依頼ください

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因になります。

AC100V(50/60Hz) の電源電圧で使用する

日本国内専用です。 それ以外の電源電圧で使用すると火災・感電・故障の原因になります。

●タコ足配線などの場合も、 加電流で発熱し、 火災・故障の原因になります。

電源プラグは根元まで差し込む

不完全な差し込みは発熱による火災・感電の原因になります。

●傷んだプラグは使用しないでください。

雷が鳴り出したら電源プラグに触れない

落雷すると誘電により感電の原因になります。

水をかけたり濡らしたりしない

内部に水が入ると、 ショートや絶縁不良で発熱し、 火災・感電・故障の原因になります。

●内部に水が入った場合は、 使用を停止し、 販売店にご相談ください。

注意

不安定な場所や振動する場所に置かない

本機が落下し、 ケガや故障の原因になります。

風通しの悪いところや狭い場所に置かない

内部に熱がこもり、 高温になると機器が変形したり、 発熱･ 火災 ・ 感電の原因になります。

●設置の際は壁から 10cm 以上離してください。

直射日光のあたる場所や温度が高い場所に置かない

機器表面の部品が劣化・変形し、 内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、 火災 ・ 感電の原因になります。

●ストーブの近くなどもご注意ください。

油煙や湯気、 湿気、 ほこりが多い場所に置かない

本機内部や端子部に水やほこりが入り、 内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、 火災 ・ 感電の原因になります。

長期間使用しないときは、 電源プラグを抜く

ほこりの堆積によりショートし、 火災 ・ 感電 ・ 故障の原因になります。

●プラグは時々点検してください。

移動する場合は電源を切り、 コード類を全て外す

接続した状態で移動するとコードが傷つき、 火災・感電の原因になります。 また、 機器が落下し、 ケガの原因になります。

本機の上にものを置いたり、 乗ったりしない

転倒や落下などによりケガの原因になります、 また、 重量で筐体が変形し、 放熱効果の悪化や内部回路に悪影響が生じることでショートや絶縁不良で発熱し、 火災 ・ 感電の原因になります。

●特に小さなお子様にはご注意ください。

大きな音で長時間ヘッドホンを使用しない。

聴力障害の原因となることがあります。

電池に関するご注意

⚠警告

電池を充電しない

電池の破裂は液漏れにより火災・故障・ケガの原因になります。

電池から漏れた液には触れない

液漏れが発生し、液が手や衣服に付着したときは、水でよく洗い流してください。

目に入ったときは、失明の恐れがあります。目をこすらずに、すぐにキレイな水で洗い流してください。その後、迅速に医師にご相談ください。

⚠注意

電池は極性表示（＋／－）を確かめ正しく入れる

極性を間違えると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

新しい電池と古い電池、性能の異なる電池を混ぜて使用しない

種類の混在した電池を使用すると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

充電式電池や指定以外の電池は使用しない

指定外の電池を使用すると、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない

液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります。

電池の電極部（＋／－）に金属物を接触させない

電池がショートし、液漏れ・発熱・発火・破裂などを引き起こし、ケガの原因になります

スピーカ設置のご注意

⚠警告

スピーカケーブルを引っかかりやすい場所に這わせない

つまずいて転倒したり、スピーカ落下により、ケガや事故の原因になります。

不安定な場所に置かない

危険ですので傾いた場所や土台の不安定な場所には置かないでください。スピーカ落下により、ケガや事故の原因になります。

注意

スピーカの上に電子機器を置かない

磁力によりデータが消失する可能性があります。

スピーカに衣類をかけたり、ぶら下がったりしない

スピーカが転倒し、事故やケガの原因になる恐れがあります。

スピーカケーブルの上に重いものを載せない

ケーブルを機器の下敷きにしたり、家具や棚の間に挟みこむと、皮膜が破損し、火災や事故の原因になります。

非防磁スピーカをテレビの近くに置かない

非防磁スピーカをテレビの近くに設置する場合は、画面に色ムラが生じることがありますので、20cm 以上離して設置してください。

MEMO

床に直接置いて低音がこもるように感じられるときには、ブロックなどのしっかりした台の上に置くと、低音が床に響かず、スッキリとすることがあります。

ディスク使用上のご注意

⚠警告

レーザに注意

本機で使われているレーザ光が目にあたると危険ですので、 レンズを直接真上から見ないでください。 視力障害の原因になります。

クラス 1 レーザ製品について
本機は、 レーザシステムと CLASS 1 LASER PRODUCT を内蔵しています。 弱いレーザ光のため、 人体に大きな影響はありませんが、 レーザ光線による視力低下を防ぐために、 絶対に本機を分解しないでください。

ディスク挿入口に異物を入れない

本機には精密レンズが内蔵されています。 この部分にほこりが付かないようにしてください。

●レンズに手を触れないでください。

●金属などの異物を入れないでください

ディスクの挿入口に手を入れない

閉まるときにはさまれてケガの原因になることがあります。 特にお子様にはご注意ください。

結露 (露つき) 現象について

■結露 (露つき) とは
冬季など、 暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴が付くことがあります。
このような現象を結露 (露つき) と申します。

■結露 (露つき) が発生する状況
・暖房を始めた直後の部屋に移動させたとき
・湿度の高い場所に持ち込んだとき
・冷たい場所から、 急に暖かい場所に持ち込んだとき
・エアコンのそばなど、 冷風が直接当たる場所で使用するとき

■結露 (露つき) が生じた場合
・正常なディスクの読み取りができず、 プレーヤが正しく動作しないことがあります。
・電源を入れ、 20 ～ 30 分待ってからご使用ください。

各部のなまえ（前面）

電源ボタン
(P16)

再生ボタン
一時停止ボタン
(P22)

液晶表示部

音量▼ボタン
(P16)

イヤホン端子

リモコン受光部
(P13)

▲ CD 排出ボタン
(P18)

CD 挿入口
(P18)

機能切換ボタン
(P17-21、26-28、30)

設定ボタン
(P17、30)

リピートボタン
(P22)

録音ボタン
(P26-29)

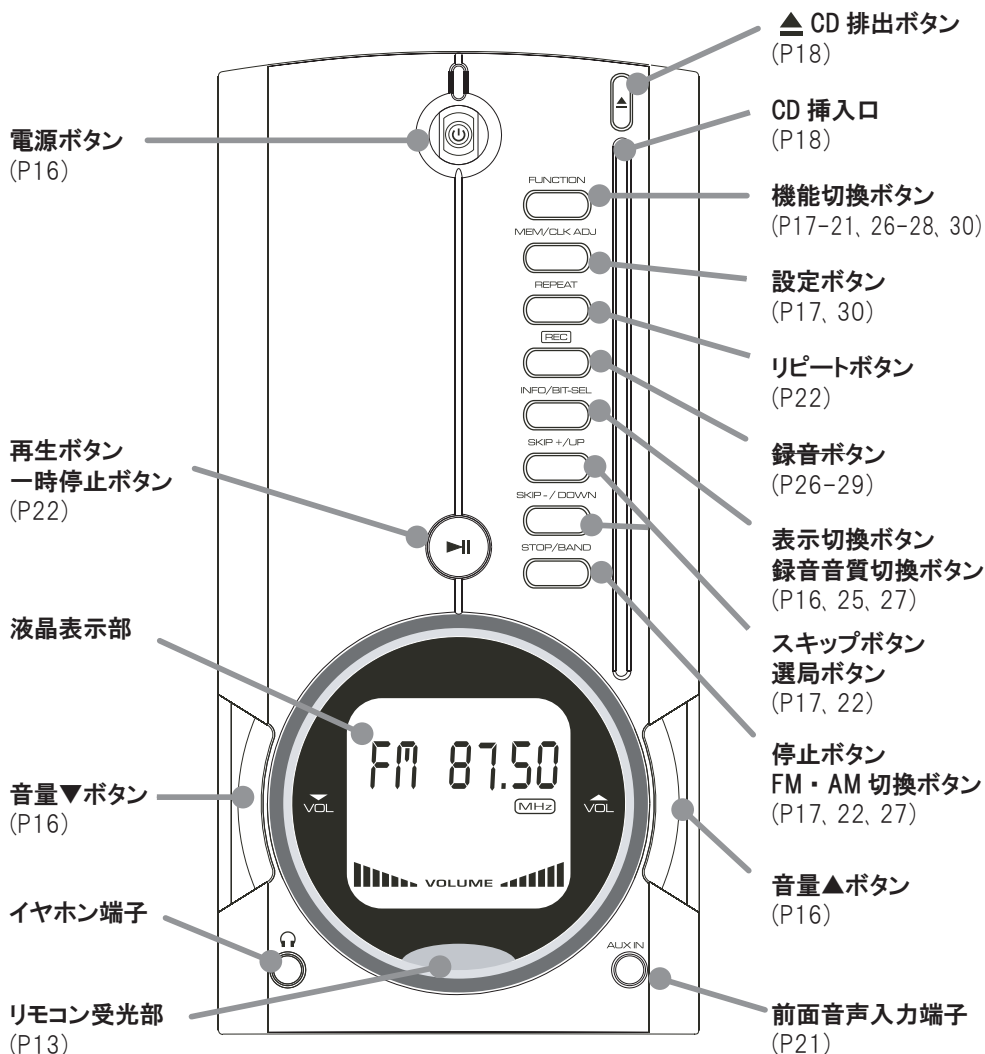
表示切換ボタン
録音音質切換ボタン
(P16、25、27)

スキップボタン
選局ボタン
(P17、22)

停止ボタン
FM・AM 切換ボタン
(P17、22、27)

音量▲ボタン
(P16)

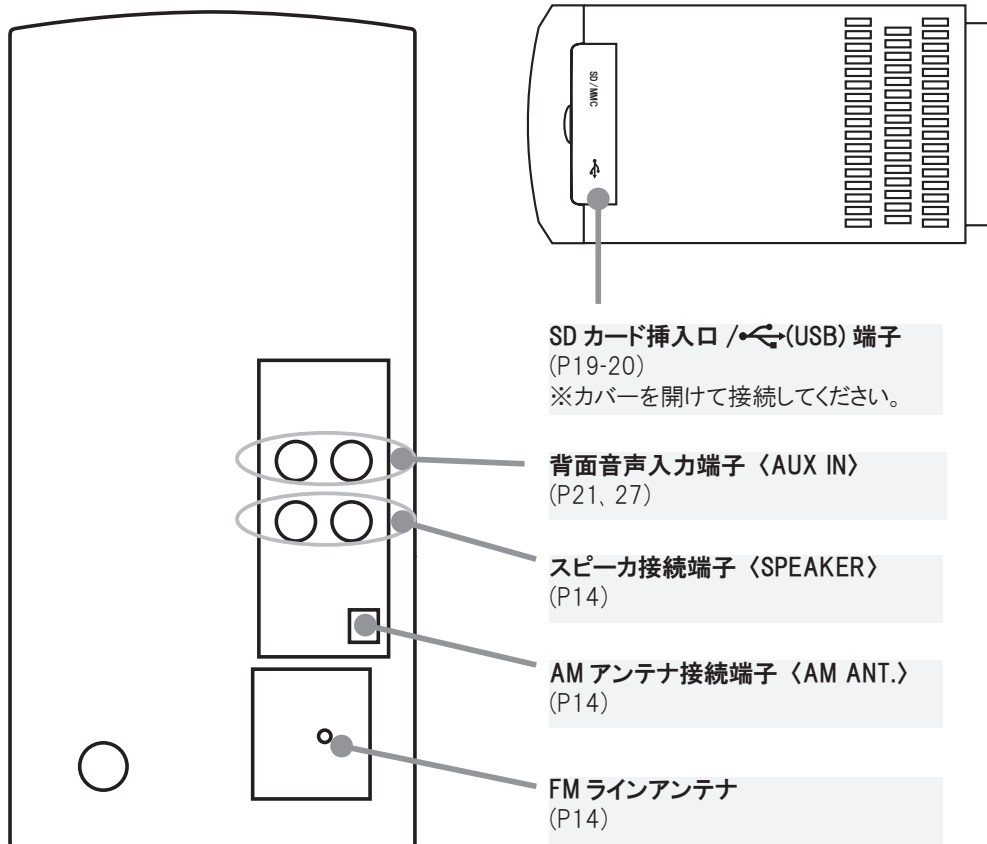
前面音声入力端子
(P21)

FUNCTION
MEM/CLK ADJ
REPEAT
REC
INFO/BIT-SEL
SKIP +/UP
SKIP -/DOWN
STOP/BAND
FM 87.50 MHz
VOL
VOLUME
AUX IN

筐体のお手入れについて

やわらかい布でふいてください。 汚れがひどいときは、石鹸水を少し布につけてふき、あとはからぶきしてください。

ご注意

ベンジンや殺虫剤をかけますと変質や変色の原因になりますのでご使用にならないでください。

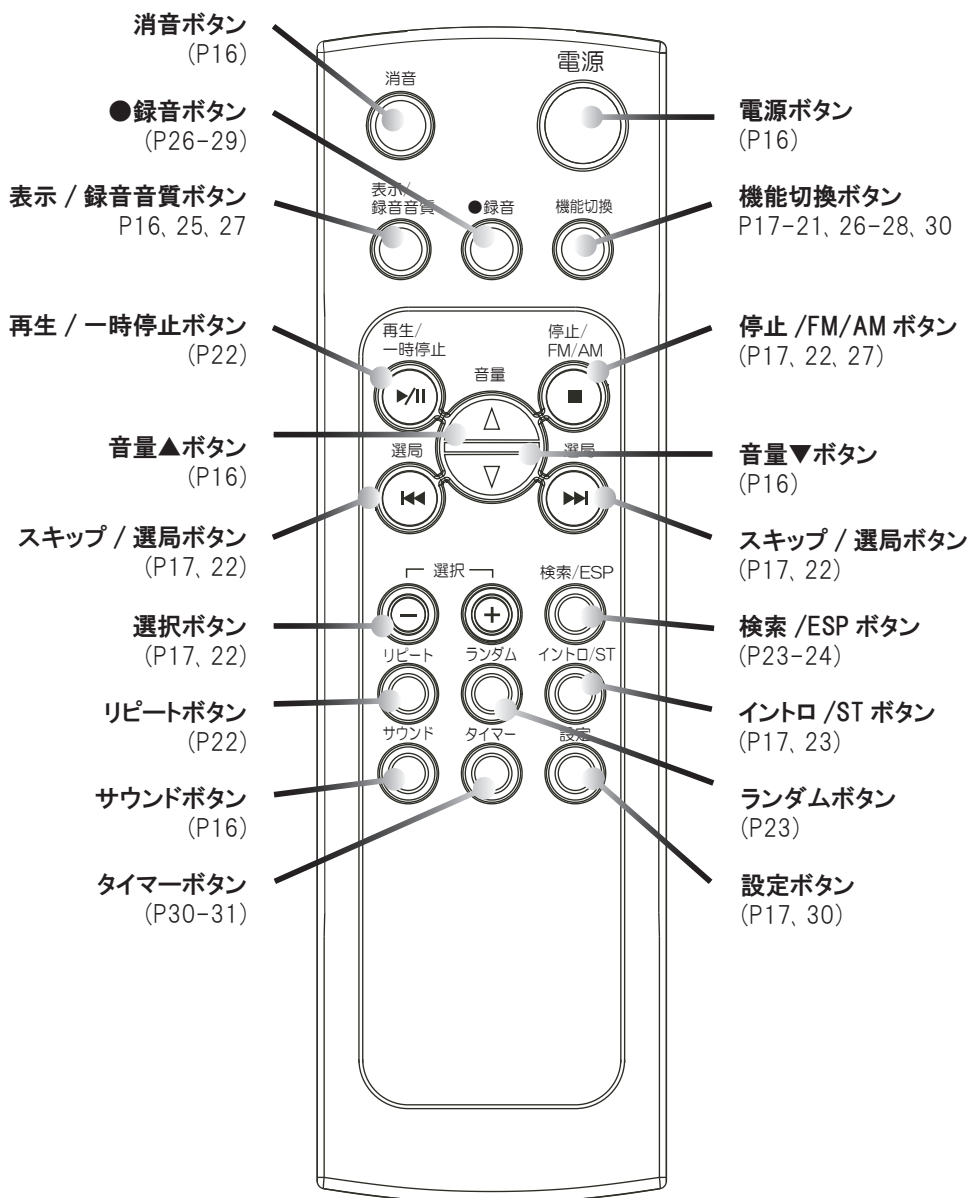
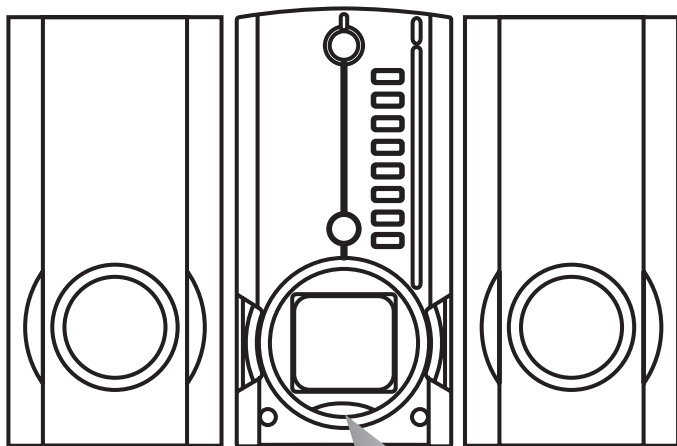
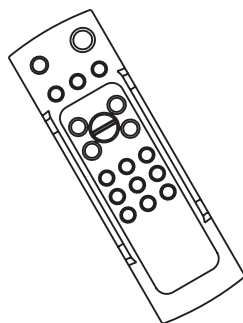
各部のなまえ（背面 / 上面）

著作権について

あなたが録音したものは、 個人として愉しむなどのほかは、 著作権法上、 権利者に無断で使用できません。

ポップノイズについて

トラックの切れ目やオーディオ機器の組み合わせにより、 システムの電源を起動したときや操作を行った場合にスピーカからポップノイズ (ボッ音、 プチ音) が発生する場合があります。
本機の電源を ON にした後で、 外部機器の電源を ON にした場合などは特にノイズが入りやすくなります。 モードボタンでサラウンドモードを切り換える時もノイズが発生しやすくなります。
いずれもポップノイズによる音響機器の動作や音質には支障ありません。

各部のなまえ（リモコン）

消音ボタン
(P16)
●録音ボタン
(P26-29)
表示 / 録音音質ボタン
P16、25、27
再生 / 一時停止ボタン
(P22)
音量▲ボタン
(P16)
スキップ / 選局ボタン
(P17、22)
選択ボタン
(P17、22)
リピートボタン
(P22)
サウンドボタン
(P16)
タイマーボタン
(P30-31)
電源ボタン
(P16)
機能切換ボタン
P17-21、26-28、30
停止 /FM/AM ボタン
(P17、22、27)
音量▼ボタン
(P16)
スキップ / 選局ボタン
(P17、22)
検索 /ESP ボタン
(P23-24)
イントロ /ST ボタン
(P17、23)
ランダムボタン
(P23)
設定ボタン
(P17、30)
電源
消音
表示/
録音音質
●録音
機能切換
再生/
一時停止
停止/
FM/AM
音量
選局
選局
選択
検索/ESP
リピート
ランダム
イントロ/ST
サウンド
タイマー
設定

リモコン操作

リモコンで本機を操作する場合は赤外線受光部にリモコンを向けて操作してください。リモコンの操作可能範囲はセンサーから7m 以内です。

ご注意

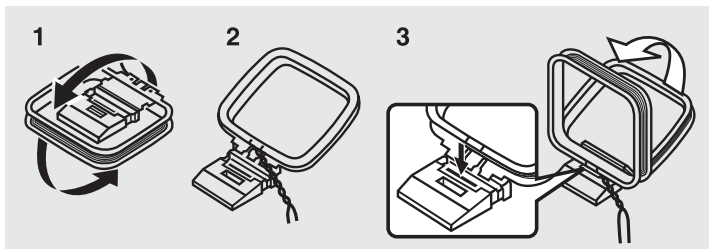
・ 赤外線センサー受光部に強い光が当たるとリモコンが正しく作動しません。
・リモコンの電池が消耗すると正しく作動しません。
・ 本機のリモコンによって他機器が誤作動する場合は直ちにリモコンの使用を中止してください。

リモコンに関するご注意

● 本書「電池に関するご注意」(P07) を必ずお読みください。
● 付属の電池は動作確認用です。
● リモコンを落としたり、 強い衝撃を加えないでください。
● リモコンにお茶や珈琲をこぼさないでください。
● リモコンの文字表記は改良等により本書と異なる場合があります。

接続する

■ AM ループアンテナの接続

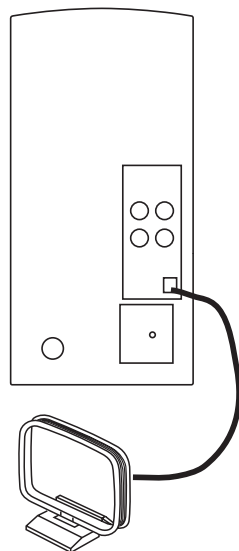
1 付属のアンテナを組み立てる。(下記 1 → 2 → 3 の手順)

2 アンテナ線を本体背面の AM アンテナ端子 <ANT> に接続する。

3 実際に受信してみて雑音の少ない位置に設置します。

《ご注意》

AM アンテナは本体からできるだけ離して設置してください。

テレビやパソコン、 蛍光灯の近くに設置しないでください。

受信感度が悪くなります。

■ FM ラインアンテナの接続

受信状態の良い位置で水平にまっすぐ伸ばして、 テープなどで固定してください。

■スピーカの接続

スピーカに左右の違いはありません。

各スピーカのケーブル端子を本機背面のスピーカ接続端子に接続してください。

本機のスピーカは防磁設計ではありません。

テレビの近くに設置する場合は画面に色ムラが生じない位置に置いてください。

スピーカのネットは取り外し可能です。

▲スピーカ端子

■電源コードの接続

電源コードは全ての機器を接続した後、 一番最後に接続してください。

長期間使用しない場合は電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグをコンセントから抜くと時間設定が取り消されます。

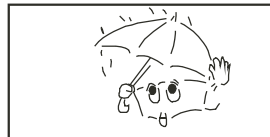
タイマー予約の内容も取り消されます。 通電後に改めて設定してください。

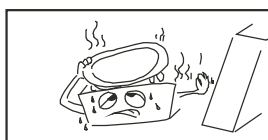
本機の設置について

■設置に不適な場所

本機は日本国内の摂氏 5 度～ 35 度までの温度で正常に作動するように設計されています。
これらの温度を下回る、 あるいは上回る環境で使用すると故障や誤作動の原因になります。
下記に挙げる環境下においては決して本機をご使用にならないでください。

・磁気を生じる場所
・振動の起きる場所

・ストーブなどの近く
・直射日光の当たる場所

・水や水蒸気のある場所
・雨や水のかかる屋外

・不安定な場所

・通気を妨げる場所

スピーカ設置に関するご注意

重大な事故の予防のため、
必ずお守りくださりますようお願いします。

■引っかかりやすい場所に配線を這わせない
つまずいて転倒したり、 スピーカ落下により、
ケガや事故の原因になります。

■スピーカの上に電子機器を置かない
磁力によりデータが消失する可能性があります。

■衣類をかけたり、 ぶら下がったりしない
スピーカが転倒し、 事故やケガの原因になる
恐れがあります。

■不安定な場所に置かない
危険ですので傾いた場所や土台の不安定な
場所には置かないでください。 スピーカ落下に
より、 ケガや事故の原因になります。
また、 設置に際しては地震による振動やお子
様の接触を十分に考慮してください。

放熱スペースについて

本機の側面と上面部には必ず 10cm 以上の放熱スペースを設けるように設置してください。 本機はご使用に伴い、 多少の熱を発生します。 熱がこもると故障や事故の原因になりますので、 通気性に留意し、 確実な放熱スペースを確保してください。

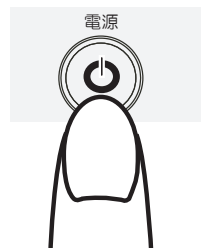
磁力障害について (防磁非対応)

本機のスピーカは防磁設計ではありません。 テレビに近づけて使用すると色むらが発生する可能性があります。 テレビと本機の距離を離してご使用ください。

基本的な操作

■電源の ON/OFF

1 本体またはリモコンの [電源] ボタンを押す。
　表示画面に【HELLO】が現れ、 スタンバイ状態が解除されます。
2 電源を切にする場合は再度 [電源] ボタンを押す。
　表示画面に【GOOD BYE】が現れ、 本機がスタンバイ状態になります。

《ご注意》
通電を完全に切にするに電源プラグをコンセントから抜いてください。

■音量の調節

音量の調節は [音量] ボタンを押します。
本機の音量が【MIN】(0) から【MAX】(32) まで変化します。

■消音機能

リモコンの [消音] ボタンを押すと再生中の音を一時的に消します。
機能の作動中は表示画面に【MUTE】が点滅します。
機能を解除するには再度 [消音] ボタンを押します。

■サウンドを切り換える

本機は 5 種類の音質効果を備えています。
リモコンの [サウンド] ボタンを押すと効果を切り換えることが可能です。
ボタンを押すたびに下記の順で効果が切り換わります。
【CLASSIC】→【ROCK】→【POP】→【JAZZ】→【FLAT】
機能を使用しない場合は【FLAT】を選択します。

■ファイル表示機能

再生中のファイルのタイトル名やアルバム名などを表示する機能です。
<u>この機能は音楽 CD 再生時は作動しません。</u>

1 再生中に [表示 / 録音音質] ボタンを押す。
　画面が「ファイル情報」表示画面に切り換わります。
　「ファイル情報」は下記の順番で自動的に表示されます。
　【FILE】→【TITLE】→【ARTIST】→【ALBUM】
2 表示を切り換えるにはもう一度 [表示 / 録音音質] ボタンを押す。
　画面が「総ファイル数 / 再生時間」表示に戻ります。

ラジオを聞く

■準備

1 AM アンテナを接続する。

2 FM アンテナを伸ばして固定する。

■放送を聞く

1 [機能切換] ボタンを押し、【TUNER】を選択する。

2 [■ (FM/AM)] ボタンを押し、【FM】または【AM】を切り換える。

3 [⏮ / ⏭ (選局)] ボタンを押して周波数を合わせる。

■ STEREO 表示について

FM ステレオ放送を受信すると表示画面に【STEREO】が現れます。
雑音が多い場合は [イントロ /ST] ボタンを押します。
ボタンを押すたびに【MONO】と【STEREO】表示が切り換わります。

■自動選局 (オートチューニング)

1 周波数表示が動き始めるまで [⏮ / ⏭ (選局)] ボタンを押す。
ボタンは押したままにします。

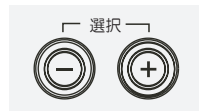
2 周波数表示が動き始めたら指を離す。
放送を受信すると表示が止まります。

■放送局を記憶させる

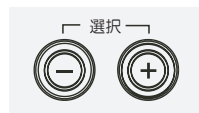
本機は放送局を記憶させ、 簡単な操作で呼び出して聞くことができます。
FM30 局 /AM15 局まで記憶 (プリセット) 可能です。

1 ラジオ放送受信中に [設定] ボタンを押す。
表示画面左下に【PROG】が現れ、 チャンネル番号が点滅します。

2 [ー / ＋ (選択)] ボタンを押し、 割り当てたいチャンネル番号を選択する。

3 [設定] ボタンを押す。
選択したチャンネル番号に放送局が記憶され、 設定を終了します。
<u>上記手順を繰り返して放送局を記憶させます。</u>

■記憶した放送局を呼び出す

1 [■ (FM/AM)] ボタンを押し、【FM】または【AM】を切り換える。

2 ラジオ放送受信中に [ー / ＋ (選択)] ボタンを押す。
チャンネル番号が切り換わります。

CD 再生の手順

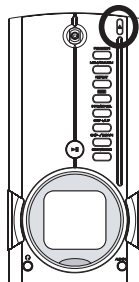
■ CD モードを選択する

1 [機能切換] ボタンを押し、【CD】モードを選択する。
　本機にディスクが挿入されていない場合は【NO DISC】と表示されます。
　本機にディスクが挿入されている場合はディスク情報が表示されます。
2 [▶/II (再生 / 一時停止)] ボタンを押す。

■ CD の挿入 / 排出 (強引で無理な挿入は故障の原因になります！)

⚠ 警告

●ディスクを無理に挿入 / 排出しないでください。 故障の原因になります。
●ディスクの演奏面に指を触れないよう扱ってください。

1 演奏面を内側 (操作ボタン側) にしてディスクをゆっくり挿入する。
　ディスクを半分程度差し込むと本機が自動的にディスクを取り込みます。
　表示画面に【CD IN】が現れディスクを読み込みます。
　【READING】が点滅し、 続けてディスク情報が表示画面に現れます。
　再生する場合は [▶/II (再生 / 一時停止)] ボタンを押します。
2 ディスクを取り出す場合はディスク挿入口上部の [CD 排出 ⏏] ボタンを押す。
　表示画面に【CD OUT】が現れ、 ディスクが排出されます。
3 排出動作の停止を確認後、 ディスクをゆっくりと抜く。
　10 秒間ディスクを取り出さない場合は CD は自動的に本機に挿入されます。

■ MP3/WMA ディスクについて

本機は MP3 や WMA ファイルを記録したCD -R や CD-RW ディスクの再生に対応しています。
階層の深いファイルがある場合はフォルダやファイルを正しく認識できない場合があります。
ディスクフォーマットは「ISO9660」で行ってください。

■本機で再生できる CD-R/CD-RW ディスクを作るには

パソコンのファイル作成ソフトの取扱説明書をご参照のうえ、 MP3 または WMA ファイルを正しく作成してください。
ディスク再生の順番はファイル名に影響されます。
ファイル名は再生したい順番にケタ数を揃えた数字をつけてください。
パソコンでファイルに付けた名前は本機では「ファイル名」として認識されます。
パソコンでファイル名をつける場合は本機で表示できる形式で入力してください。

■ファイル (曲) 名表示について

本機で表示できるファイル名 / フォルダ名は半角英数字のみです。
半角英数字以外の文字がファイル名またはフォルダ名に含まれている場合は表示されません。
音楽 CD の場合は曲名表示されません。

SD 再生の手順

■ SD カードモードを選択する

1 [機能切換] ボタンを押し、【CARD】 モードを選択する。
本機に SD カードが挿入されていない場合は【NO CARD】と表示されます。
本機に SD カードが挿入されている場合は自動的に再生を開始します。

2 本機の音量を調節する。

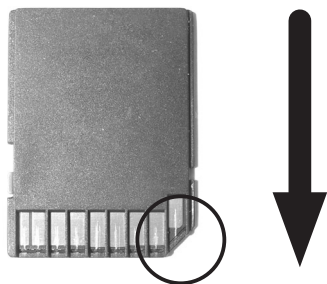
■ SD カードの挿入

1 本体上面の SD/ USB挿入部のフタを開ける。

2 SD カードを挿入する。
奥まで差し込むとカチ音がしてロックされます。

▲上記の向きで差し込んでください。

⚠ カード挿入時のご注意

●角がカットされた側を右にする。
●金属端子部を手前にする。
●奥までまっすぐに差し込む。

■ SD カードの排出

1 カードの中央部を押す。
カチ音がしてロックが解除されます。

2 まっすぐに引き抜く。

⚠ カード排出時のご注意

●録音中やにカードを取り出さない。
●カードが使えなくなる恐れがあります。

■使用できるカード

SD メモリーカード、 miniSD カード (miniSD アダプタが必要) が使用できます。
8MB、 16MB、 32MB、 64MB、 128MB、 256MB、 512MB、 1GB、 2GB
マルチメディアカードもご利用になれます。

■フォーマットについて

フォーマットは必ず本機で行ってください。 (P29 参照)
他の機器でフォーマットしたカードは使用できない場合がございます。

⚠ カード取扱上のご注意

分解や改造をしないでください。
金属端子部を手で触れないでください。 また金属で触れないでください。
直射日光の当たる場所や湿気やホコリの多い場所に放置しないでください。
機器から取り出したときは、 必ずケースに収納してください。

USB 機器再生の手順

■ USB モードを選択する

1 [機能切換] ボタンを繰り返し押し、【USB】モードを選択する。
　本機に USB 機器が接続されていない場合は【NO USB】と表示されます。
　本機に USB 機器が接続されている場合は自動的に再生を開始します。
2 本機の音量を調節する。

■ USB 機器の接続

1 本体上面の SD/ USB挿入部のフタを開ける。
2 本機の (USB) 端子に USB マスストレージ規格の USB 機器を接続する。

《ご注意》
USB 機器は本機に直接接続してください。
ハブを使用した接続はしないでください。

■本機に接続できる USB 機器

USB マスストレージ規格に対応した USB フラッシュメモリなどが接続可能です。

⚠ USB 接続に関するご注意

●本機の USB 端子はパソコンと接続できません。
●本機の USB 端子は iPod と接続できません。
●本機は全ての USB マスストレージ規格対応機器への対応を保証するものではありません。
●本機は全ての USB マスストレージ規格対応機器への電源供給を保証するものではありません。

■免責事項
本機とデジタルオーディオプレーヤやフラッシュメモリなどを接続して使用しているときに、 デジタルオーディオプレーヤなどのデータが消失または損傷した場合、 当社は一切の責任を負いかねます。 大切なデータは予めバックアップを取ってください。

外部機器再生の手順

■ AUX 接続について

本機は本体前面と本体背面に 1 系統ずつ、 合計 2 系統の音声入力端子 (AUX) を装備しています。 簡単な接続で、 本機をテレビやパソコンのスピーカとして活用していただくことが可能です。

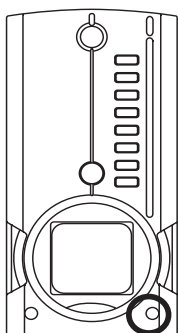
⚠ ご注意

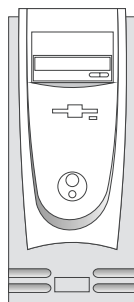
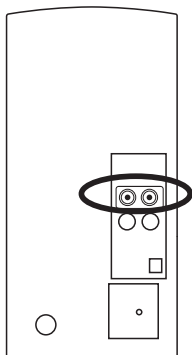
● 前面と背面の両方の端子に機器を接続した場合は前面端子の機器の再生が優先されます。

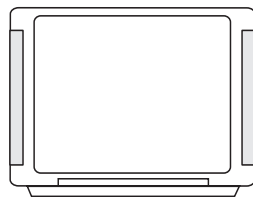
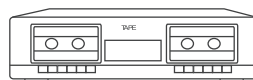
■ AUX モードを選択 (再生) する

1 [機能切換] ボタンを繰り返し押し、【AUX】モードを選択する。

2 AUX に接続した機器を再生する。
本機に接続された外部機器が再生状態の場合は本機のスピーカから音声が出力されます。

3 本機の音量を調節する。

■前面端子 (AUX1) の接続例
ステレオミニプラグコード (市販品) を使用し、 パソコンや携帯機器の音声出力端子などに接続してください。

ステレオミニプラグコード

▲音声端子付パソコン

■背面端子 (AUX2) の接続例
RCA 端子タイプのステレオピンコード (市販品) を使用し、 テレビの音声出力端子などに接続してください。

ステレオピンコード

▲テレビジョン

▲テープデッキ

音楽を再生する

■再生

[▶/II (再生 / 一時停止)] ボタンを押す。

再生/
一時停止

■停止

[■ (停止)] ボタンを押す。

停止/
FM/AM

■一時停止

1 再生中に [▶/II (再生 / 一時停止)] タンを押す。
2 機能を解除するにはもう一度ボタンを押す。

再生/
一時停止

■スキップ再生

1 再生中に [I◀◀] または [▶▶I] ボタンを押す。
押した方向にスキップします。

選局　選局

■サーチ再生

1 再生中に [I◀◀] または [▶▶I] ボタンを押したままにする。
2 聞きたい位置でボタンから指を離す。

選局　選局

■フォルダスキップ再生 (MP3/WMA のみ)

1 再生中に [− / ＋ (選択)] ボタンを押す。
押した方向にフォルダをスキップします。

選択

《ご注意》
この機能は複数のフォルダが収録されたデータのみに機能します。

■リピート再生

1 再生中に [リピート] ボタンを押す。
ボタンを押すたびに表示画面にリピート方法が現れます。
データ CD(MP3/WMA) にはフォルダリピート再生機能があります。

リピート

ディスク	1 曲リピート再生	フォルダリピート再生	全曲リピート再生
音楽 CD	REPEAT1		REPEAT ALL
MP3/WMA	REPEAT1	REPEAT ALBUM	REPEAT ALL

2 [リピート] ボタンを押して、 リピート方法を選択する。
3 機能を解除するには【REPEAT】表示が消えるまでボタンを押す。

再生する（つづき）

■ランダム再生

1 停止または再生中にリモコンの［ランダム］ボタンを押す。
本機が自動的にランダム再生を開始します。
ランダム再生中は表示画面に【RANDOM】が現れます。

2 機能を解除するには再度ボタンを押す。

■イントロ再生

1 再生中にリモコンの［イントロ /ST］ボタンを押す。
各トラック（ファイル）を約 10 秒間ずつ再生します。
イントロ再生中は表示画面に【INTRO】が現れます。

2 機能を解除するには再度ボタンを押す。

■プログラム再生

本機は最大 32 曲までの予約再生に対応しています。
プログラム設定は再生停止状態で行ってください。

1 ［設定］ボタンを押す。
表示画面にプログラム番号【P01】が点滅します。

2 予約する曲を［ ⏮ ］または［ ⏭ ］ボタンで選ぶ。

3 ［設定］ボタンを押す。
表示画面にプログラム番号【P02】が点滅します。
続けて予約する場合は上記手順を繰り返します。（最大 32 曲）

4 プログラム終了後［▶/II（再生 / 一時停止）］ボタンを押す。
予約順にプログラム再生を開始します。
プログラム再生中は表示画面に【PROG】が現れます。

予約を取り消すには

1 停止中に［ ■ (FM/AM)］ボタンを押す。
【PROG】表示が消え、 機能を解除します。

■ ESP 機能（音楽 CD のみ）

Electronic Skip Protection の略。
ESP 機能時は振動などによる音とびを防止することができます。

1 機能を OFF にするには CD 再生時に［検索 /ESP］ボタンを押す。
画面から【ESP】表示が消え、 機能が OFF になります。

ファイル検索機能

本機では MP3 や WMA ファイルを記録したディスクや SD カード、 USB フラッシュメモリ内のフォルダやファイルを検索することができます。
検索機能はファイル名検索とフォルダ (アルバム名) 検索の 2 種類があります。
音楽 CD では検索機能は作動しません。

■ファイル名検索

ファイル名検索は個々のファイル名の頭文字 (A ～ Z、 0 ～ 9) でファイルを検索する方法です。
例 :「fuji.wma」というファイルは【F】項目に収められています。

検索/ESP

1 [検索 /ESP] ボタンを 1 回押す。
表示画面に【A】と表示されます。(【A】表示は最初は毎回表示されます)

選局　選局

2 [|◀◀ / ▶▶|] ボタンを押し、 ファイル項目を検索する。
[▶▶|] ボタンを押すと【A】→【B】→【C】の順で移動します。
[|◀◀] ボタンを押すと【9】→【8】→【7】の順で移動します。
「fuji.wma」ファイルを検索する場合は【F】項目に移動します。

3 該当の項目が見つかったら、 [■ (停止)] ボタンを押す。
【F】項目内のファイルを表示します。

4 [|◀◀ / ▶▶|] ボタンを押し、 項目内のファイルを検索する。

5 該当のファイルが見つかったら [▶/II (再生 / 一時停止)] ボタンを押す。
該当ファイルの再生を開始します。

■フォルダ名 (アルバム) 検索

1 [検索 /ESP] ボタンを 2 回押す。
収録されているフォルダ (アルバム) 名が表示されます。
※フォルダに入っていないファイルは【ROOT】フォルダに収録されています。

2 [|◀◀ / ▶▶|] ボタンを押し、 フォルダ (アルバム) を検索する。

3 該当のフォルダ (アルバム) が見つかったら、 [▶/II (再生 / 一時停止)] ボタンを押す。
該当フォルダ (アルバム) の再生を開始します。

本機で記録されたフォルダ名およびファイル名について

■録音されたファイル名

メディア内に【AUDIO】フォルダが作成されます。
【AUDIO】フォルダの中に【AUDIO001.MP3】などのファイル名で格納されます。

■データ複製されたファイル名

メディア内に【FCOPY】フォルダが作成されます。
【FCOPY】フォルダの中に、 WMA ファイルの場合は【WMACP001.WMA】、 MP3 ファイルの場合は【MP3CP002.MP3】などのファイル名で格納されます。

録音する

本機での録音 (CD → SD、 CD → USB 機器など) は MP3 フォーマットで録音されます。

データ複製 (※) の場合は元のファイルと同じです。

■録音可能な音源と録音先

音源	SD カードへ	USB 機器へ
CD	○	○
SD		○ (複製※)
USB 機器	○ (複製※)	
ラジオ (FM のみ)	○	○
外部機器 (AUX)	○	○

《ご注意》

録音中は本機に振動を与えないようにしてください。

SD カードや USB 機器は録音中や再生中に取り外さないでください。

故障やデータエラーの原因になります。

■録音音質 (ビットレート) について

本機では 5 種類の録音音質 (ビットレート) を選択することが可能です。

録音方式によって録音時間と音質が異なります。

最高の音質で録音する場合は 256kbps(超高音質) を選択してください。

ラジオ録音などの場合は 64kbps(長時間録音向け) の選択をオススメします。

■録音時間早見表

	256kbps	192kbps	128kbps	96kbps	64kbps
32MB	約 15 分	約 20 分	約 31 分	約 41 分	約 62 分
64MB	約 32 分	約 42 分	約 65 分	約 85 分	約 128 分
128MB	約 65 分	約 85 分	約 130 分	約 173 分	約 260 分
256MB	約 130 分	約 173 分	約 260 分	約 346 分	約 520 分
512MB	約 260 分	約 350 分	約 520 分	約 700 分	約 1040 分
1GB	約 500 分	約 670 分	約 1007 分	約 1343 分	約 2014 分
2GB	約 1000 分	約 1340 分	約 2000 分	約 2680 分	約 4000 分

■ビットレートの変更 (選択) 方法

1 録音先の機器 (USB 機器または SD カード) を接続する。

2 [表示 / 録音音質] ボタンを押す。

表示画面にビットレートが表示されます。

3 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、 ビットレートを選択する。

4 ビットレートを決定し、 [表示 / 録音音質] ボタンを押す。

ビットレートが確定します。

録音する（つづき）

■ CD を録音する

準備

i ［機能切換］ボタンを押し、【CD】モードを選択する。
ii CD を挿入する。
iii 録音メディア（SD カードまたは USB 機器）を接続する。
iv 録音方式（ビットレート）を設定する。

１［■（停止）］ボタンを押す。（CD の再生を停止状態にする）
２［●録音］ボタンを押す。
　表示画面に【CHECKING】が点滅し録音を開始します。
　自動的に CD の再生を開始します。
　録音中は表示画面に【REC】が点滅します。

●録音

《ご注意》
USB 機器と SD カードの両方を接続している場合は録音先の選択を求められます。
［|◀◀ / ▶▶|］ボタンで選択してから［録音］ボタンを押します。

■ CD の一曲だけを録音する

準備

i ［機能切換］ボタンを押し、【CD】モードを選択する。
ii CD を挿入する。
iii 録音メディア（SD カードまたは USB 機器）を接続する。
iv 録音方式（ビットレート）を設定する。

１ 録音したい曲を再生する。
２［●録音］ボタンを押す。
　再生中の曲の冒頭に戻り、 録音を開始します。
　事前に設定されている録音方式で録音されます。
　対象曲の再生終了後、 自動的に録音を停止します。

《ご注意》
USB 機器と SD カードの両方を接続している場合は録音先の選択を求められます。
［|◀◀ / ▶▶|］ボタンで選択してから［録音］ボタンを押します。

録音する（つづき）

■ラジオ (FM 放送) を録音する

準備

i [機能切換] ボタンを押し、【TUNER】モードを選択する。
ii [■ (FM/AM)] ボタンを押し、【FM】を選択する。
iii 録音メディア (SD カードまたは USB 機器) を接続する。
iv 録音方式 (ビットレート) を設定する。

1 録音する放送局に同調 (出力) する。
2 [録音] ボタンを押す。
3 録音を終了する場合は [■ (FM/AM)] ボタンまたは [録音] ボタンを押す。

《ご注意》
AM ラジオ放送は録音できません。

■外部機器 (AUX) を録音する

準備

i [機能切換] ボタンを押し、【AUX】モードを選択する。
ii 外部機器を音声入力端子に接続する。
iii 録音メディア (SD カードまたは USB 機器) を接続する。
iv 録音方式 (ビットレート) を設定する。

1 [録音] ボタンを押す。
2 録音元の音源 (外部機器) を再生 (出力) する。
3 録音を終了する場合は [■ (停止)] ボタンまたは [録音] ボタンを押す。

■録音情報の表示
録音中にリモコンの [表示 / 録音音質] ボタンを押すと録音経過時間や録音ファイル名などを表示することができます。
■残量時間について
USB または SD カードの録音残量時間が不足している場合は表示画面に【FULL】が現れ録音を中止します。

データ複製

本機では SD カードから USB 機器へのデータ複製 (コピー)、 また USB 機器から SD カードへのデータ複製が可能です。

音源と複製先および機能切換設定の関係は下記の表を参照してください。

音源	複製先	機能切換設定
USB 機器を再生する	SD カードに録音	【USB】に設定する
SD カードを再生する	USB 機器に録音	【CARD】に設定する

■一曲複製

準備

i 【USB】または【CARD】それぞれのモードを選択する。

ii 複製先の機器 (USB 機器または SD カード) を接続する。

1 複製したい曲を再生する。

2 [●録音] ボタンを押す。

再生中の曲の冒頭に戻り、 複製を開始します。

本体表示に【CHECKING】が現れます。 チェック時間が短い場合は表示されません。

複製進度が【0】から増加し【100】になると複製が終了します。

■全曲複製

準備

i 【USB】または【CARD】それぞれのモードを選択する。 .

ii 複製先の機器 (USB または SD) を接続する。

1 [■ (停止)] ボタンを押す。(再生を停止状態にする)

2 [録音] ボタンを押す。

本機が自動的に、 上記「一曲複製」の手順を繰り返し、 全ファイルの複製を行います。

フォーマットに関するご注意

本機でフォーマットしたメディアは本機以外の機器で使用できない場合があります。
USB 機器を初期化する場合、【NO FILE】と表示されていても、 音楽ファイル (MP3/WMA) 以外のファイルが収録されている場合があります。 初期化を行うとメディア内に記録されている全てのデータが消去されますのでご注意ください。 消去されたデータは元に戻すことができません。
あらかじめパソコンなどで内容をご確認することをオススメいたします。

ファイル管理

■ファイル消去 (曲を消す)

準備

i 【USB】または【CARD】それぞれのモードを選択する。
ii [■ (停止)] ボタンを押す。(本機の再生を停止する)

《ご注意》
再生中のファイルは消去できません。
一度消去したファイルは元に戻すことができません。

1 本機を停止中に [●録音] ボタンを 3 秒以上押し続ける。
　表示画面に【DEL 001】が現れます。
　「DEL」は Delete(消去) の略です。「001」はファイル番号を示しています。
2 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、 消去するファイル番号を選択する。
3 【●録音】ボタンを押す。
　表示画面に【YES / NO】選択が現れます。
4 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【YES】を選択する。
5 [●録音] ボタンを押す。
　表示画面に【DELETE】が現れ、 消去が実行されます。
　ファイル削除後は次のファイルの番号が繰り上がります。
6 操作を終了する場合は [■ (停止)] ボタンを押す。

■初期化する (フォーマット)

準備

i フォーマットするメディアを挿入する。
ii 【USB】または【CARD】それぞれのモードを選択する。
iii [■ (FM/AM)] ボタンを押す。(本機の再生を停止する)

1 本機を停止中に [●録音] ボタンを 3 秒以上押し続ける。
　表示画面に【DEL 001】が現れます。
2 いったんボタンから指を離す。
3 再度 [録音] ボタンを 3 秒以上押し続ける。
　表示画面に【FORMAT】が現れ【N】(NO) 表示が点滅します。
4 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【Y】(YES) を選択する。
5 [●録音] ボタンを押す。
　表示画面に【FORMAT】が現れ、 初期化が実行されます。
　初期化を完了すると表示画面に【COMPLETE】が現れます。

時計機能

■時刻を合わせる

時刻の設定はスタンバイ (電源切) 状態で行ってください。

時刻表示は 24 時間形式です。

1 本機をスタンバイ状態にする。

2 ［設定］ボタンを押す。
【時】表示が点滅します。 点滅は約 5 秒です。 5 秒以内に操作してください。
[設定] ボタンを押すたび【時】表示と【分】表示が切り替わります。

3 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【時】を設定する。

4 [設定] ボタンを押し、【分】表示に切り替える。
【分】表示が点滅します。

5 [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【分】を設定する。

6 ［設定] ボタンを押す。
時刻設定を終了します。

■タイマー機能の ON/OFF について

タイマー機能が ON の場合は表示画面右下に アイコンが点灯しています。
機能を使用しない場合はスタンバイ状態で [タイマー] ボタンを押します。

表示画面から マークが消えます。

■おはようタイマーの設定

設定した時刻にお好みの音源を再生する機能です。

①【音源】→②【音量】→③【開始時刻】→④【終了時刻】の順番で設定します。

時刻の設定はスタンバイ (電源切) 状態で行ってください。

1 音源設定

i リモコンの [タイマー] ボタンを押す。
初期画面では【TUNER】表示が点滅します。
点滅は約 7 秒です。 7 秒以内に操作してください。

ii [機能切換] ボタンを押し、 好みの音源を選択する。
ボタンを押すたびに下記の順で音源表示が切り換わります。
【CD】 → 【USB】 → 【CARD】 → 【TUNER】

2 音量設定

i ［ タイマー] ボタンを押す。
【VOL】(音量) 表示が点滅します。

ii [音量] ボタンを押し、 お目覚め音量を設定する。

時計機能（つづき）

3 開始時刻設定

i [タイマー] ボタンを押す。
【ON】(開始時刻) 表示が点滅します。

ii [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【時】を設定する。

iii [タイマー] ボタンを押す。
【分】表示が点滅します。

iv [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【分】を設定する。

4 終了時刻設定

i [タイマー] ボタンを押す。
【OFF】(終了時刻) 表示が点滅します。

ii [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【時】を設定する。

iii [タイマー] ボタンを押す。
【分】表示が点滅します。

iv [⏮ / ⏭] ボタンを押し、【分】を設定する。

5 終了設定

上記手順 (1 ～ 4) を行った後で、

i [タイマー] ボタンを押す。
【現在時刻】表示に戻ります。
表示画面右下に Ⓛ アイコンが点灯します。

《ご注意》

上記手順の後で続けて [タイマー] ボタンを押すと、Ⓛ アイコンが消え、 タイマー機能が OFF になります。 タイマーの作動は必ずアイコンの点灯をご確認ください！

■おやすみタイマーの設定

設定した時間が経過すると再生を停止し、 自動的に電源を OFF にする機能です。

1 音源を再生中に [タイマー] ボタンを押す。
ボタンを押すたびに下記の順番で表示が切り換わります。(単位 : 分)
【90】→【80】→【70】→【60】→【50】→
【40】→【30】→【20】→【10】→【OFF】(機能解除)

2 [タイマー] ボタンを押して再生時間を選ぶ。
おやすみタイマー作動中は表示画面に【SLEEP】が現れます。

CD（ディスク）について

■使用できるディスク（CD/CD-R/CD-RW）について

本機は CD 規格（CD-DA）で記録され、録音終了時にファイナライズされたディスクおよび MP3 または WMA フォーマットで記録された CD-R と CD-RW 再生に対応しています。
ディスクのレーベル面に図のロゴが表記されているディスクのみを再生できます。
DVD やビデオ CD など、 非対応のディスクは故障や事故の原因になりますので絶対に再生しないでください。

ご注意
CD-R/RW ディスクであっても、 ディスクの種類や記録するレコーダー、 記録に用いるライティングソフトによっては再生できない場合もあります。

■ディスクのお手入れ

コンパクトディスクの汚れやごみ、 キズ、 そりなどが雑音の原因になることがあります。 次のことにご注意ください。

- ●ディスクをケースから取り出す場合は演奏面にキズを付けないようにディスクの端を持ってください。
- ●ディスクを折り曲げないようにしてください。
- ●従来のレコード盤に使用されているレコードクリーナーやスプレーおよび静電気防止剤は使用できません。
- ●コンパクトディスクに指紋等が付いて汚れたときは、 水を含ませた柔らかい布で拭いた後、 乾いた布で拭いてください。
- ●ディスクを拭くときは、 必ず内側から外側方向に拭いてください。 同心円上のキズは雑音になりやすいためです。

▲ディスクの端を持ちます

▲内側から外側へ向けてふく

▲円周方向のキズは NG です

■ディスクの保管

ディスクはケースに入れて正しく保管してください。
直射日光のあたる場所や暖房器具の近くには置かないでください。
炎天下の車内に放置しないでください。 温度の高い場所で保管しないでください。
浴室は加湿器のそばなど、 湿気やホコリの多い場所では保管しないでください。

困ったときの原因と対策

修理をご依頼になる前に、 まず下表で原因をご確認ください。
それでも改善されない場合はお買い上げの販売店にご相談ください。

症状	原因と対策	参照
電源が ON になっているが音が聞こえない。	スピーカーコードが外れている。 →左右のケーブルを正しく接続してください。	P11 P14
	スピーカコードを間違えて接続している。 →背面の「SPEAKER」端子に正しく接続してください。	P11 P14
	機能切換設定を間違えている。 →「機能切換」ボタンを何回か押してください。	
CD の音声が出ない	機能切換の設定を間違えている。 →「機能切換」ボタンを押し、設定を【CD】にしてください。	P18
CD を挿入できない	いきなり入れると故障の原因になります。 CD はゆっくり半分程度差し込んでください。 →本機が自動的にディスクを挿入します。	P18
特定箇所の CD 再生をしない	ディスクが汚れている場合は清掃してください。	P32
背面の AUX 端子に接続した機器の音が出ない	前面の AUX 端子に外部機器が接続されている場合は前面の機器の音声が優先して出力されます。	P21
タイマーの音源を設定できない	機能切換ボタンで音源を設定する必要があります。	P30
タイマーが作動しない	タイマー設定が OFF になっている。 →時計アイコンの点灯を確認する。	P30 P31
AM 放送の録音ができない	本機で録音できるのは FM 放送のみです。	P27
AM 放送を受信できない	アンテナを接続していない場合は背面の端子にアンテナを正しく接続する。	P14
ファイル名が表示されない	音楽 CD のデータは表示されません。 漢字ヤカタカナ、 ひらがなは表示されません。	P16 P18
SD カードの録音ができない	カードの書き込み禁止スイッチが「LOCK」になっている。 →「書き込み禁止」を解除してください。	
ファイル名検索ができない	ファイル名を確認してください。 ファイル名の冒頭に「001ABC」や「055XYZ」などの「0」の数値が記載されたファイルは「0」項目に入っています。	P24
USB 機器の音が出ない。	パソコンやハードディスクタイプのプレーヤの音声や出力されません。本機は全ての携帯型プレーヤおよびフラッシュメモリに対応していません。	P20
USB 機器を認識しない	本機でフォーマットを行ってください。。	P29
SD カードを認識しない	本機でフォーマットを行ってください。	P29
リモコンが操作できない	乾電池が消耗している。 →新しい乾電池と交換してください。	P13

おもな仕様

■本体総合

電源電圧………………AC100V、50Hz/60Hz
消費電力……………………………40W
待機時消費電力…………………………7W
本体寸法……幅110×高220×奥260mm
本体質量…………………………………3kg

■アンプ部

実用最大出力……………………4.5W+4.5W
サウンド選択……………………………5種類
(CLASSIC/ROCK/POP/JAZZ/FLAT)

■端子部

音声入力端子……………前面(1)、背面(1)
イヤホン端子……………ステレオミニ端子(1)
USB端子……USB1.1/2.0 TYPE_A端子(1)
SD/MMCスロット…………SDメモリカード型(1)

■ラジオ部

FM受信周波数帯域…………76.0-108MHz
(100kHzステップ)
AM受信周波数帯域…………522-1629kHz
(9kHzステップ)
回路方式……………PLLデジタルシンセ方式
プリセット放送局…………FM30局/AM15局

■ CD部

対応ディスク………………CD、CD-R、CD-RW
再生フォーマット……………PCM、MP3、WMA
周波数特性……………………20Hz-20kHz
S/N比 ……………………………………40dB
高調波歪率…………………………1%以下
チャンネルセパレーション………………35dB

■ SD/USB部

再生フォーマット…………………MP3、WMA
再生サンプリングレート……32/44.1/48kHz
再生ビットレート……………8kbps-384kbps
録音フォーマット…………………………MP3
録音ビットレート……………………5段階選択
(64/96/128/192/256kbps)

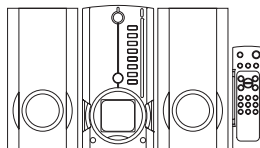
■タイマー/時計部

形式……………24時間表示デジタルクロック
タイマー…………電源入/電源切/スリープ

■スピーカ部

型式……………………2WAYバスレフ方式
定格インピーダンス………………………8 Ω
最大入力……………………………………15W
ウーファー…………………………3.5インチ
ツィーター…………………………1.5インチ
周波数帯域……………………60Hz-15kHz
クロスオーバー周波数…………………10kHz
寸法…………幅110×高220×奥225mm
質量(約)………………………1.6kg(1個)

■赤外線リモートコントローラ部

寸法……………幅45×高155×幅15mm
質量(約)…………………52g(乾電池除く)
使用電源…………………単4形乾電池(2)

★仕様および外観は改良のため予告なく変更する場合がございます。

保証とアフターサービス

保証書はこの取扱説明書に付属していますので、 必ず [販売店] や [ご購入日] などの記載を確かめ、 保証内容などをよくお読みください。 保証期間はお買い上げ日より 1 年間です。

修理を依頼されるときは

まず本書にしたがってもう一度操作していただき、 直らないときに次の処置をしてください。
症状はできるだけ詳しくお知らせください。

保証期間中

・保証書の規定に従い、 お買い上げの販売店か弊社が修理させていただきます。

・製品に保証書を添えてご送付ください。

保証期間が過ぎているとき

・お買い上げの販売店にご相談ください。

・修理によって使用できる製品につきましてはご希望により有料で修理させていただきます。

ステレオ音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。
隣近所への配慮を十分にいたしましょう。
ステレオの音量はあなたの心がけ次第で大きくも小さくもなります。
特に静かな夜間には小さな音でも通りやすいものです。
夜間の音楽鑑賞には特に気を配りましょう。
窓を閉めたり、 ヘッドホンをご使用になるのもひとつの方法です。
お互いに気を配り、 快い生活環境を守りましょう。
このマークは音のエチケットのシンボルマークです

愛情点検 長年ご使用の AV 機器の点検を！

こんな症状はございませんか？
●電源コードや電源プラグが異常に熱い。
●電源コードやプラグにヒビが入っている。
●電気が入ったり切れたりする。
●異常な音や臭い、 発熱がある。
●その他の異常や故障、 不具合がある。

すぐに使用を中止し、電源プラグをコンセントから抜いてください。
必ず電器店に点検をご依頼ください。 費用等も併せてご相談ください。